

1 ポイント（特に工夫した項目に○ いくつでも）

作成者： 小川 美子（木谷俊彦）

（中学部）

教材教具の工夫	
1 実態に合っているか？	○
2 ねらいが明確か？	○
3 興味関心を生かしているか？	
4 シンプルで誰でも再現可能か？	
5 一目で動作をイメージできるか？	○
6 児童生徒も教師も使いやすいか？	○
7 実際の生活や他の場面で生かせるか？	○

2 生徒の実態（個人）

- ・ 身辺処理は、教師の支援が全般的に必要な。
- ・ 階段の昇降、歩行などの移動においても教師の支援が必要なときがある。
- ・ 物の感触を口で確認する（なめる、噛むなど）。
- ・ 「立つ」、「座る」等の日常的に使う言葉を少し理解できる。
- ・ 有意味な発語はなく、発声や表情、体の動きなどで感情を表現することができる。



3 教材教具のねらい

- ・ どの教室でも同じ机が使用できる。（教室移動が楽にできる。）

4 改善の経緯

（1）4月頃の使用例や児童生徒の様子

- ・ 体幹の筋力不足から体が、右側に傾いてしまうため一般的な生徒用机では姿勢を保持して活動に取り組むことが難しい。
- ・ 昨年度の担任が作った机を今年度も継続して使用しようとしたが、体の成長により机の高さが合わなかった。また、製作活動や作業学習、給食等、様々な場面で使用するため、教員が一人でも生徒の支援をしながら教室移動がスムーズにできるようにしたいと考え、キャスターを取り付けて机を高くし、移動可能にした。

改善のポイント！！

- ・ 高さを適正にする。（生徒の体に合わせる）
- ・ 簡単に移動できる。
- ・ 安全に使用できる。（転倒防止）



（2）12月現在の使用例や児童生徒の様子

- ・ バランスボールやサーキット運動、階段の昇降などの運動により、体幹の筋力がつき姿勢が右側に傾かなくなった。
- ・ 姿勢保持机では、常に肘が机上有るので、食事や製作活動などにおいて手を動かしやすいこともあり、自分でスプーンやフォークを持って食べられるようになってきている。また、机を移動させる際には、キャスターが付いているので、教師と一緒に机を押して運ぼうとする姿も見られるようになってきた。

今後の改善や使用について

- ・ どの方向にも移動できるようにしたい。
- ・ 生徒一人でも移動できるようにしたい。（教材の改善と本人の能力向上）